

第61回 技能五輪全国大会に出場

1 概要

2023年11月17日(金)～11月21日(火)に、愛知県国際展示場で第61回技能五輪全国大会が開催された。

技能五輪全国大会は国内の青年技能者(23歳以下)を対象に、競技を通じて努力目標を与えるとともに、広く国民一般に対して技能の重要性や必要性をアピールすることを目的として実施されている。競技種目は、全42職種あり、成績に応じ金賞、銀賞、銅賞および敢闘賞が授与される。なお、金賞受賞者には世界大会への参加権が与えられる。

東光高岳が技能五輪「工場電気設備」への参加を始めたのは統合前の高岳製作所時代で、第26回大会(1988年)から出場し、第34回大会(1997年)で、初めて敢闘賞を受賞した。

今大会では、電力プラント事業本部第二品質保証部制御装置品質保証グループ所属の村上琢朗さん(2023年度入社)が、当社としては4年ぶりに栃木県代表として全国大会に出場し、配電盤・制御盤組立課題(制限時間6時間)、電気設備異常診断課題(制限時間20分)に挑戦した。

2 大会を通じて得られたもの

入賞はできなかったが、他団体とも切磋琢磨しながら取り組むことができた。村上さんは、この大会を経験して次のような所感を述べている。

「今回、このような貴重な機会をいただき、たいへん感謝している。学生時代に2度全国大会に出場していたが、その時は配電盤・制御盤の組立完遂のみを目標としていた。今回は入賞を目標に、作業工程・治工具のカイゼンを何度も繰り返し、競技課題に取り組むことができた。結果として入賞できなかったが、技能五輪で学んだ配電盤・制御盤に関する知識・スキル、カイゼンの重要性を職場での実践で活かしたいと思う。

また、技能五輪に参加している他団体の選手との交流では、たいへん刺激を受けた。合同模擬訓練会、職種懇親会といった場で意見交換することで、自分自身への励みとなった。」

3 今後の展望

技能五輪への参加は、「トップレベルの技術者と競い合い、スキル向上を目指すことで、自職場での品質の向上や技術力の向上を促すこと」をねらいとしており、今後も同様の取り組みを続けていく予定である。



競技中の様子：配電盤・制御盤組立課題



競技課題完成写真：配電盤・制御盤組立



出場した村上琢朗さん
(電力プラント事業本部 第二品質保証部
制御装置品質保証グループ所属)